

Sport Academy

—— スポーツアカデミー2015 ——

障害者のスポーツ環境づくりの ための大学の取り組み

～海外事例調査から～

笹川スポーツ財団 研究員
上 梓

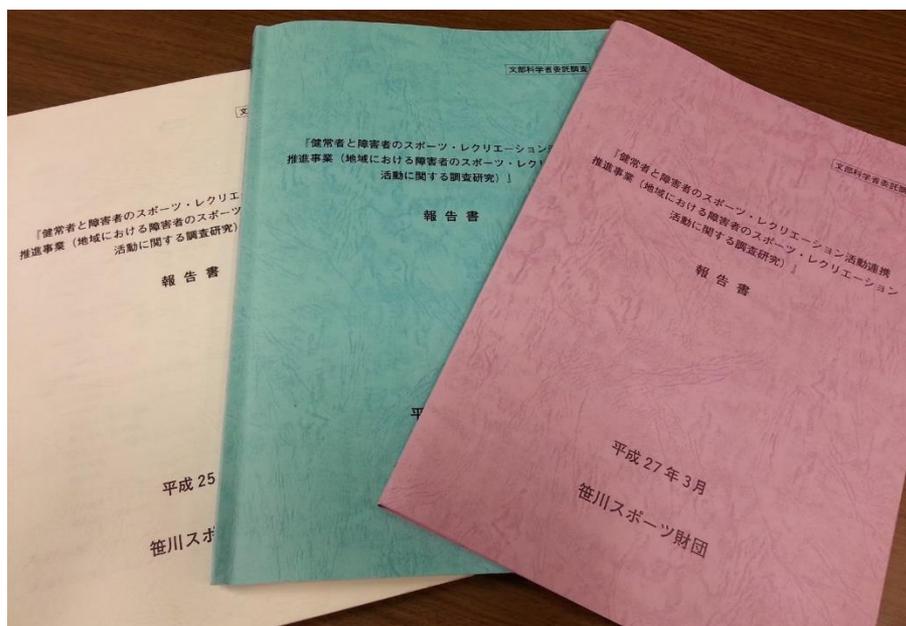
2016年3月15日(火) 19:00～



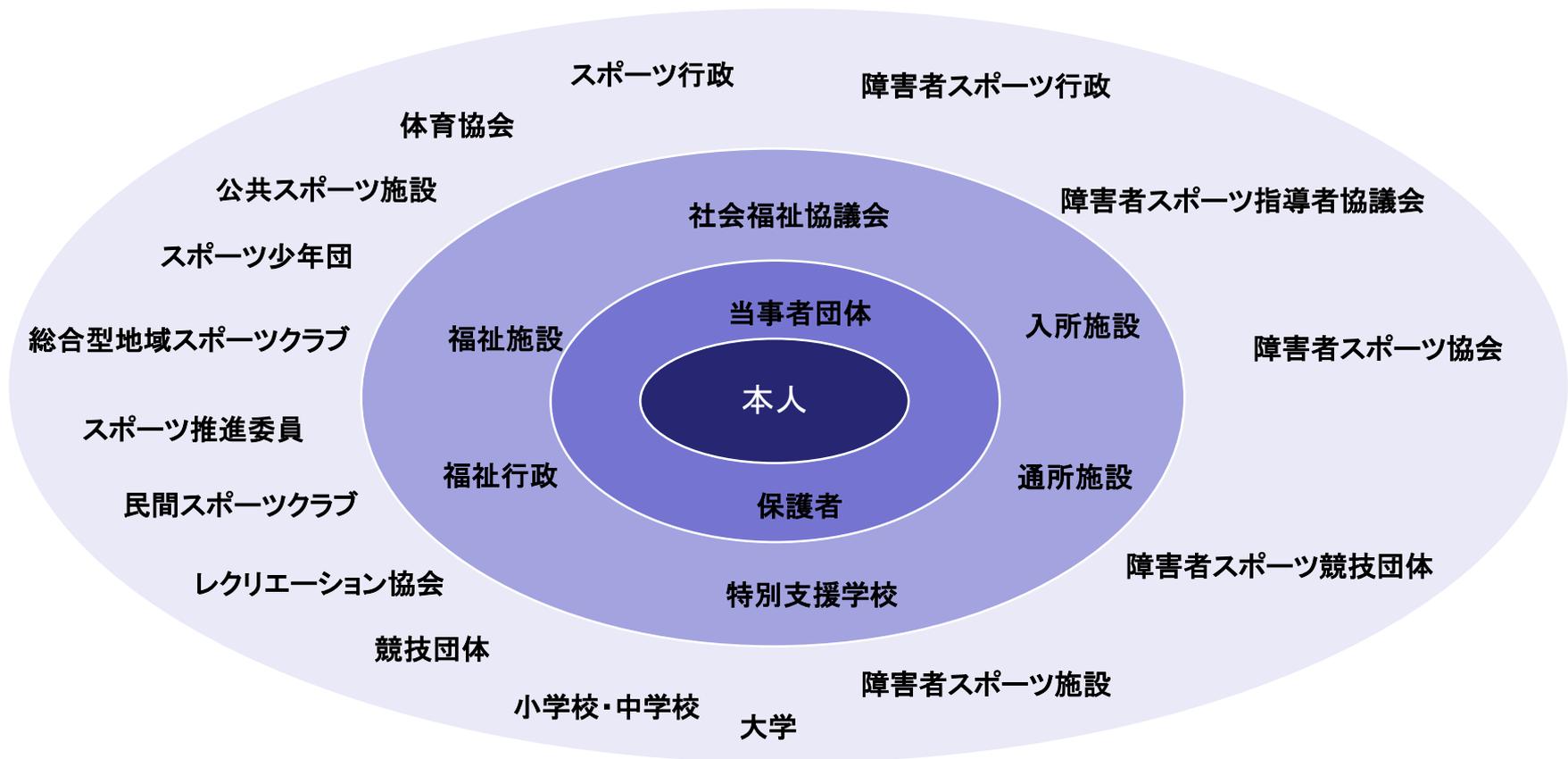
障害者スポーツを取り巻く現状

- スポーツ基本法の成立（2011）
→ 障害者スポーツの推進について言及
- 東京パラリンピック開催決定（2013）
- 障害者スポーツの管轄（2014）
→ 厚生労働省から文部科学省へ移管
- スポーツ庁の設置（2015）

(2012～2014年度) 文部科学省受託調査
『健全者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業
(地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)』



地域のスポーツ環境(健常者・障害者)



(2015年度) スポーツ庁受託調査
『地域における障害者スポーツ普及促進事業
(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』

1. 障害児・者のスポーツライフに関する調査
2. 福祉サービスを通じた障害者のスポーツ活動支援に関する調査
3. 諸外国における障害者のスポーツ環境に関する調査

諸外国における障害者のスポーツ環境に関する調査

●調査対象国：近年のパラリンピック開催国のうち、地域の障害者スポーツの推進体制が整っており、レガシーとの関連がうかがえる以下3カ国：

- ① イギリス
- ② カナダ
- ③ オーストラリア

●調査方法：現地ヒアリング調査、文献調査

●主な調査内容：

- 地域における障害者スポーツの実施体制
- 学校における障害児・者の体育・スポーツ活動への参加
- 病院、リハビリテーションセンターと連携した障害者スポーツの振興
- 大学を拠点とした障害者スポーツの振興
- 障害種別におけるスポーツ振興状況

●調査期間：2015年7月～10月

本日のテーマ

- ①障害者スポーツにおける大学が担う主な役割
- ②イギリスのウスター大学の取組み
- ③カナダのアケイディア大学の取組み

大学が担う主な役割

1. 選手の育成・強化
2. 障害者スポーツ指導者・スタッフの育成
3. 障害者スポーツの普及・理解促進
4. 研究・医科学的サポート（リハビリテーション含む）

イギリスの基本情報

<国情報>

- 面積
24.3万km²
- 人口
6,460万人
- 首都
ロンドン
- 政体
立憲君主制

<基本情報>

- イングランドの障害者人口
約940万人（2011年時点）
- スポーツ行政組織
文化・メディア・スポーツ省
- 障害者スポーツ行政組織
文化・メディア・スポーツ省



ウスター大学の概要

ウスター大学 (University of Worcester)

<概要>

- 設置：1946年設立、2005年に大学として認可
- 学部：教育学部、ビジネス学部、スポーツエクササイズ科学部など6学部
- 学生数：約10,000人（2013年時点）の内、障害がある学生は約1割。



障害者スポーツ指導者養成学科

- 障害児の体育の授業への参加における課題
 - 教員養成カリキュラムに障害者スポーツの内容
- 1999年～：「障害者スポーツ」の12週間コースを開始
 - 初年度：約25人の受講者
 - 中央競技団体からのニーズが高まる
- 2011年～：学位としてプログラムを提供

年次	科目		
1年目	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツコーチング理論 ・ 運動基礎学 ・ 身体活動と技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツにおける課題 ・ 身体活動、運動、健康 ・ アウトドア活動による成長とチームビルディング 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アダプテッドスポーツと障害 ・ 社会文化学 ・ 学校における運動活動
2年目	<ul style="list-style-type: none"> ・ コーチング教育学と実践(実習①) ・ 障害者のコーチングと科学的分析 ・ 研究方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動スキルの習得 ・ スポーツ栄養学 ・ 強度、パワー、スピード 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツと障害 ・ スポーツイベントの運営 ・ スポーツの多様性
3年目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立学習 ・ コーチングにおける課題 ・ スポーツと障害(発展) ・ スポーツ栄養学(発展) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツの多様性 ・ オリンピックスポーツ ・ 技術の習得とパフォーマンス ・ スポーツにおける子供の成長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コーチング実習② ・ インターンシップ ・ スポーツと民間企業 ・ 障害者スポーツ評価学

人材育成

【指導者派遣】

- 地域のスポーツクラブと連携し、ボランティアや実習の一環で、指導者・スタッフとして派遣
 - 余暇・リラクゼーションプログラムを提供する「ウスター・スヌーズレン（Worcester Snoezelen）」
 - ウェスト・ブロムウィッチ・アルビオンFC傘下のアルビオン障害者スポーツクラブにて指導

障害者スポーツと街づくり

大学環境

- 学生の声を施設整備に反映
 - バリアフリー設備の拡充
 - スポーツアリーナ
- 障害・失読症支援室の設置

など

住みやすい地域

- 地域でのボランティア、インターンシップ、就職の斡旋
- 学業、雇用、日常生活の面で、障害者が健常者と同じような生活を送る

カナダの基本情報

<国情報>

- 面積
998.5万km²
- 人口
3,540万人
- 首都
オタワ
- 政体
立憲君主制

<基礎情報>

- 障害者人口（2012年時点）
約380万人
- スポーツ行政組織
民族遺産省
- 障害者スポーツ行政組織
民族遺産省



アケイディア大学の概要

アケイディア大学 (Acadia University)

<概要>

- 設置：1841年
- 学部：教育学部、ビジネス学部、運動学部
など12学部
- 学生数：約4,000人（2014年時点）



S.M.I.L.E.プログラム

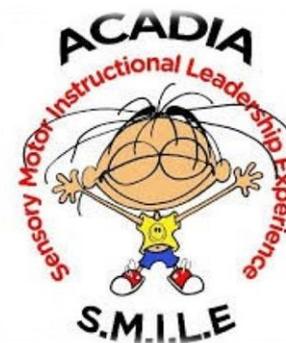
(Sensory Motor Instructional Leadership Experience)

【背景】

- 大学周辺の障害児・者が地域で孤立
 - 発達障害児のための全寮制の学校
- 1982年：運動療法学の受講生向けの実習として開始

【目的】

- 障害児・者の運動スキルの習得
- 知覚機能の向上
- 他者との信頼関係の構築



Acadia University websiteより

参加者とプログラム内容

【参加者】

- 障害：自閉症、知的障害、脳性麻痺、ダウン症等
- 人数：280人（2015年）
- 近隣の学校・施設から参加

曜日	時間	対象	参加者	内容
火曜	9:00～11:30	障害児 (近隣の学校から参加)	100人	・ 水泳
木曜			100人	
金曜	18:30～20:30	障害者 (青少年・成人)	50人	・ 交流を目的としたプログラム(スケート、料理、音楽、ゲームなど)
土曜	9:00～11:30	11歳以下	80人	・ 体育館での遊び、ゲーム、音楽 ・ 水泳 ・ 個人およびグループ活動

学生ボランティア

【学生ボランティア】

- 600人の希望者（2015年）
- 運動、経営、音楽、教育などの学部・学科から参加

【特徴】

- 参加者と学生がペアを組み、16週間にわたって活動
- トレーニングセッションと定例打ち合わせ
- ボランティアリーダーによるナレッジシェア
- 卒業後、福祉・スポーツ分野で活躍



まとめ

- 日本型モデルの検討と紹介
- 2020年、地方でもオリンピック・パラリンピックの効果を波及させる手がかり
- 大学が地域の障害者をつなぐ橋渡し